

政府、紛争解決へ全力

東大・東教大 入試中止は了承

臨時閣議

東京および東京教育大（後修学志を略し四学部）の入試中止決定にあつて、政府は三十日午後一時から臨時閣議を開き、これら二大学をはじめとする当面の大学紛争に対処する態度を協議した。その結果、東大、東京教育大両大学当局と文部省がごつた入試中止の協議をやる必要はないものとして了承した。また、佐藤首相は、大勢紛争問題がすでに重大な社会問題、政治問題にまで発展しているとして、必ずしも全力を尽して紛争の解決にあたる決意を表明するとともに、各関係が国民の理解と協力を得るために万全を期すよう希望した。この閣議の結果に基づいて、二部学生の暴力による両大学の入試が中止されたことは遺憾だ。政府も今日の事態について深く自覚し、教育の存続に全力をつくす、この原則を局長を指導を徹底した。閣議記事、2・15面に

臨時閣議では、まず坂田文相が二二十八、九日に行われた加藤東大総長代行、前川東京教育大総長代行との話し合いの経過を詳しく報告し「文部省は、今後とも大勢紛争を認めて、事態の改善に努力していきたい」と述べ、引続き、この報告をめぐって各関係が

在学生の留年問題などについて、四府の教育委員に対して、東大側が「これからの問題であり、大勢紛争と相俟していきたくない」と答えた。留年問題にはまだ結論を出していないことを明らかにした。

また、坂田首相は「二十九日の加藤東大総長代行の会議で文相が示した方針を踏まえてこの節が出した入試中止の協議をやむを得ないとしたが、東大側が「これからの問題であり、大勢紛争と相俟していきたくない」と答えた。このほか、各関係から多くの質問や意見が述べられたと、最後は文相が「この問題については、一月十五日までは、わずかに状況をつくらうこと、文部省も同じ」と答えた。

また首相は坂田文相に対し「学

朝日 12/31

学長ら首脳総退陣

東教大



三輪光輝学長

東京教育大学の前川学長代理「ひび」と正教に辞意を表明し（体育学部長）は三十日、退任した。同大学では二十九日の評議会での入試中止決定の経緯などを説明した。これに対し三輪学長「合意をとり、三十一日に評議会は「紛争を解決せず、入試中止」との意思で行う予定なので、この二日間は大学運営を担い責任をこなし、この学長、学部長、評議員の意思

暴力で混乱続けば 適切な方途講ず

文相談話

坂田首相は三十日、東大などの「めんどくさい」大勢紛争の努力に、来年度入試の中止にあつて、文もかわらざる努力に各関係の相互理解を徹底し、国民の理解を求む。厚層、講義が紛争には、文

東京外語大は実施

入試文相と学長が結論

東京外語大の来春の入試が、三堅く、多くの学生が入学希望の意を表明し、入試実施に同意した。十日、朝野両派と決つた。同外語大が「入試を平常通り実施する」として、教職員が結束しての努力をする。実際の目的は、この具体的な方法は学長に「任す」と決めた。この報告をした。また、文相側は「紛争は收拾に向つて」と強調した。

文部省側は、教官の意思統一がとられ、学生の愛護再開への意図が明らかになったことなど、正常化への努力が手配されて



への努力に一般と努力をする。この場合のふたつは、他の大学にも波及しないように努力すること、ならざるを得ない。そして、首相は最後に「大学紛争は重大な社会問題、政治問題であり、必ずしも暴力による解決に頼るべきではない。国民の理解と協力を得るよう万全を期してほしい」と発言して閣議を終つた。

相対して「適切な方途」を講ずる。このたびは東大と東京教育大のみに限らず、大勢紛争を招き、部分の学部で、開年度の学生募集力してこれら女性関係や女性などは行われないことになった。また、このたびは入試中止を認めること

に努力してまた開校をはじめ、国民各層の心算を定めて、またこれに必要ないものがある。とてこれの大学が歴史と伝統を有する大学だけに、その影響も大きく、社会に対する責任を認識する。大勢紛争を認める場として、それとかわりに教育の水準を高め、その水準を維持し、わが国の将来を担う人材を育成し、その使命を果さなければならぬ。しかし、強欲ながらこれら大学の現状は、一部学生が暴力をほいままにし、学問としての要領が失われ、正常な運営も行われず、また

その同様の見地も立ちかへ。このように教育をまじとす。自費で通じないまま、空身に新たな学生を入学せよよりは、むしろこの古い学生の受け入れを断念し、大勢が新しく立て直しに努力する、という前向きな決意を示さないで済む。

もとより、当面の事態の解決を急ぐあまり大学運営に無理を課すことのないよう対処すること、あるいは他の大学に波及するようない事項については、慎重に前入念。さらに、大会のあらゆる努力にもかかわらず、今後とも各学部に努力が期待し、正常な運営の秩序が確保され、再始が望ま

れば、私は必要に応じてこれに対する適切な方途を講ずる考えだ。

朝日 12/31